

視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	議会広報委員会
参 加 者	委員長 野島 さつき 副委員長 加藤 義幸 委 員 柳 賢一 中根 善明 野本 篤 近藤 敏浩 井町 圭孝 鈴木 静男 三宅 健司
視 察 日 時	令和6年5月15日（水）
視察先・概要	和歌山県和歌山市 人口：354,837人 世帯数：176,639世帯 面積：208.85 k m ²
視 察 項 目	議会広報誌について
視 察 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1 議会広報に関する組織の変遷 <ul style="list-style-type: none"> ・幹事長会で議会広報について協議 テレビ・ラジオ放送の開始※平成7年2月定例会の代表質問～ ・市議会だより編集委員会（任意）を設置 市議会だよりの発行※平成8年2月定例会号～ 議長、各会派選出の委員10人 ・広報委員会（任意）に名称変更※平成25年9月定例会号～ 各会派選出の委員11人 ・広報委員会 （地方自治法第100条第12項に基づく協議又は調整を行うための場） 平成30年3月設置 各会派選出の委員11人（令和5年12月22日現在） 事務局：H30.4 議事調査課調査広報班→R5.4 秘書広報課秘書広報班 2 議会広報の主な取組 <ul style="list-style-type: none"> ・市議会だよりの発行 ・ラジオ・テレビ放送、CM放送 ・市議会PR動画の制作 ・ホームページによる情報発信 ・公式フェイスブックページによる情報発信 ・公式Instagramによる情報発信 ・公式Youtube『和歌山市議会チャンネル』による情報発信 ・デジタルサイネージの運用 3 議会広報改革の取組 <ol style="list-style-type: none"> (1) 市議会だよりの見直し <ul style="list-style-type: none"> ア 中核市議会議長会議会報コンクールの受賞市などを視察 イ 表紙の議員写真を廃止し、見出し以外の文字は書かない ウ 特集記事の掲載 エ 市民との意見交換 オ 街頭配布

	<p>カ 市議会だより設置事業者の募集 キ 議会報コンクールで3年連続入賞</p> <p>(2) SNSの導入</p> <p>ア フェイスブック フォロワー数 2,690人 投稿は月平均28件（定例会中は毎日）</p> <p>イ インスタグラム フォロワー数 298人 投稿は月平均10件</p> <p>ウ 和歌山市議会公式YouTube チャンネル登録者数 268人</p> <p>エ SNS運営の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォロワー数、登録者数、アクセス数の伸び悩み ・掲載するネタ（内容）のマンネリ化 ・一方通行のコミュニケーション <p>オ SNS運営の今後 誰に向けて発信するか、ターゲット設定が重要</p> <p>(3) PR動画</p> <p>ア 委託による動画制作 イ 事務局による動画制作（機材購入費は約40万円）</p> <p>4 議会広報に関する令和6年度予算 約1,500万円 ※フェイスブック、インスタグラム、YouTubeについては予算はなし</p> <p>5 これからの挑戦 議会報コンクールで再び入賞を目指す 「伝える」から「伝わる」広報へ</p>
<p>所 感</p> <p>※視察しての感想や岡崎市への提言など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌山市議会では、平成29年度より議会広報誌改革に取り組み始め、6都市を視察するなどして、良い所を取り入れ、わかりやすい、親しみやすい議会広報誌にして、市民により親しまれる広報誌づくりに取り組んでいる。議会広報誌の素晴らしいと思えるところは、毎号、議会と企業家との対談などの特集記事を掲載しているところ、広報誌の街頭配布、広報誌を置いてもらえる企業、商店などの募集をしているところなど、見習うべき所もたくさんあった。議会広報誌だけでなく、SNS運営、PR動画の撮影など幅広く広報活動をしている所も素晴らしいと感じた。議会広報に対する予算が岡崎市の1.5倍あり、市長部局の理解があるからこそできることだとも感じた。 ・今回の視察のための岡崎市議会宛の歓迎ショートムービーを作成されたことから見られるように、積極的に自分たちで動画を活用し、運用されていると実感した。若い世代にも興味・関心を持ってもらえる記事を掲載するよう、写真やイラストを積極的に活用し、視覚に訴えてから文字を読んでもらうように工夫されており、QRコードを積極的に活用し、

市議会ホームページや本会議及び委員会の録画中継などに誘導されているのが特徴的であった。市議会だよりの発行ごとに、広報委員自らが駅前やスーパーなどで市議会だよりを街頭配布し、市議会をより身近に感じてもらえるように活動されていることも素晴らしい。加えて、市議会だよりの民間事業所への100カ所以上箇所を増やすことで、市議会だよりが一人でも多くの市民の目に触れるように取り組まれている。SNS等を用いた情報発信について、特にInstagramのストーリー機能の更新頻度については、更新時間、数を研究し、日々継続されている。SNSは更新頻度も極めて重要であり、本市においても運用方法について参考にすべきだと考える。全体を通して、広報委員の皆様、市議会だよりのあらゆる項目日本一を目指す意識が極めて高く、日々切磋琢磨されている姿勢から、本市の取組及び考え方についても、一考すべきと考える。表紙にコスプレイヤーの写真を採用するなど、市議会のニュアンスをあえて出さずに、若年層も一緒に考えていける関係づくり、その発想が素晴らしいと感じた視察となった。

- ・和歌山市議会の広報誌編集を視察してきた。議会の広報を「伝える」から「伝わる」という目的から様々な形で市民の皆さんに手に取ってもらおう工夫がたくさんあった。「各地で議会広報の賞を取ったところを勉強していること」、「議会だよりに特集を組んでいること」、「議会広報委員会で議会だよりを手配りしていること」、「議会だよりを設置してくれるお店を増やしていること」、「議会事務局が動画を編集してSNSでアップしていること」など先進的な部分がたくさんあった。SNSはもちろん近所のスーパーで議会広報委員が手配りで議会だよりを配るという地道なことまで多くの場面で広報委員会の方の熱意があった。SNSにアップする前に動画の編集を議会事務局と議会広報委員会のメンバーで作成する機材やソフトを導入して素材を作る素地がある中で、SNSでアップするというチャンネルが増えたということであった。今回の視察のために特別にウェルカム動画を作成してくれたところを見ても動画編集の技術が確立されている印象を受けた。そして、議会だよりを魅力的にするには特集記事を組むことも重要だと感じた。議会事務局の職員が24名ほどの規模だからできると思う。岡崎市でも特集を組むことや動画を編集することなどの技術は、議会事務局が行うかどうかは別にしても、発信する方法としては重要なので検討が必要と考える。
- ・議会広報誌において議員による注目の時事に関する特集ページを掲載されていた。議会の広報という面ではSNS等を活用した取り組みもさることながら、PR動画の作成に力が入っていた。議会にまつわる事柄をアニメで示しており、子ども達への主権者教育という観点からも必要性を感じる。広報委員会所属の議員だけが動画に出演しており、他の議員から不平の声が聞こえてきそうである。ただ、議会が始まることを予告する等の情報を発信するという考え方は大いに参考にすべきと考える。たくさんの市民に議会広報誌に触れてもらう機会の創出を目指した取り組み

として、議会広報誌を地域のお店に置いてもらう制度を実施されている。すでに200カ所を超えるとのことである。お店の申請と登録に対して議会広報を郵送する。登録と設置の協力をしてきている地域のお店は議会ホームページ等で公表し、少しでもお店を知ってもらえるような対応をしている。広報を立てるスタンドも貸し出すとのことである。この登録制度はお互いにとって良いつながりとなると考えられ、本市においても実施検討すべきと考える。

- ・和歌山市はサービス精神旺盛な市だと感じた。市庁舎14階の展望レストランには驚愕した。そのうえビュッフェスタイルのランチが頂けた。その和歌山市の姿勢が議会広報委員会の取組に現れている。市議会を知ってもらうために、いかに議会広報誌を配るか、その点に注力していると思う。「表紙をわかりやすい、親しみやすいものに変えた」、「特集記事の掲載」、「市民との意見交換」、「街頭配布」、「市議会だより設置業者募集」、「SNS運営」、「PR動画制作」いずれにおいても一貫していかにして市議会だよりを手にとってもらうかに重点を置いた広報活動となっている。市議会だより政策に関わった議員のいささか公平さを欠く露出にも特にとがめる声はないとのことであり驚いた。
- ・伝える広報活動として、議会だよりの刷新、議会だよりを置いてもらえる事業所の拡大やスーパー等での議員による配布、SNSの積極的発信など、非常に精力的に活動されていたが、特に議会だよりの特集ページ及び特集ページとリンクした表紙には非常に驚かされた。特集ページは、広報委員が4班に分かれて、毎年1回テーマの決定や取材等を受け持つとのこと。議会とのつながりがあるものばかりではないかもしれないが、議会だよりを手にとってもらえる有効な手段だと感じた。このように先進的な活動をしている中でも、伝える広報活動から伝わる広報活動を目指して活動しており、今後も和歌山市議会の活動を参考にさせていただきたい。
- ・見やすい、読みやすい、親しみのある紙面づくりを心掛け、中核市議会議長会の議会報コンクール入賞の高い目標に向け議員と事務局職員が一致団結しての広報誌製作に取り組んでいる姿が感じられた。広報誌作成のみならず、広報誌を手にとって読んでもらいたい活動をされていることは我々議会広報委員会としても検討するべきと感じた。SNS活用による広報は、一方通行のコミュニケーションであるためなかなか結果が出てこないことは理解できた。PR動画制作については費用対効果の面で疑問を感じた。本委員会では荷が重いと感じた。デジタルサイネージは議会傍聴者入口に常時議会案内や広報を映しだしておくことを検討してはと思う。
- ・和歌山市議会広報委員会の委員ひとりひとりが情熱を持って「わかやま市議会だより」を作成していること、市民に読んでもらうために委員の手で街頭配布をしていること、学生さん・コスプレイヤーなどの協力を得ていること、定例会前にはPR動画を放映していることなどさまざまな

	<p>手法を用いて議会から情報発信していることに並々ならぬものを感じた。本市においても見習うべき点は多くあると考えるが、本市の地域性も鑑みながら目標を定め計画を立てていきたい。まずは多くの市民の皆さんに議会に対して興味を持っていただくにはどうしていくのが良いのか、これを第一に考え進めていきたい。</p>
<p>委員長の総括</p>	<p>市議会の活動について、市民の皆さんに分かってもらえるように、議会だよりの特集ページを取り入れたり、SNS の活用、動画配信などに積極的に取り組んだりする姿勢は見習いたいと思った。議会だよりは、全戸配付に加え、より読んでもらえるよう、駅やスーパーなどで直接配布をしたり、店舗に置いてもらったりすることにも取り組んでおり、「伝える」ではなく「伝わる」に重点を置く姿勢に感銘を受けた。議会の紹介をアニメ動画で配信しており、大変分かりやすい内容であった。本市のキッズページにも導入できればと思う。ただ、その前にホームページをもっと見やすくしたい。</p>